令和５年２月２４日
政策経営部政策企画課

基本計画審議会における検討状況について

１．主旨

令和５年２月６日（月）に開催した第６回基本計画審議会における検討状況について、報告する。

２．内容

（１）第６回基本計画審議会における検討状況

※内容の詳細については別紙のとおり

３．今後のスケジュール（予定）

令和５年	３月１４日	第７回基本計画審議会
	３月２９日	第８回基本計画審議会（答申）
	５月	５常任委員会報告（基本計画（骨子案））
	６月	区民意見募集
	９月	５常任委員会報告（基本計画（素案））
		パブリックコメント
令和６年	２月	５常任委員会報告（基本計画（案））

別　紙 2

第６回基本計画審議会における検討状況

令和５年２月２４日
政策経営部政策企画課

第６回基本計画審議会における検討状況

【概　要】

令和５年２月６日（月）に第６回基本計画審議会を開催したため、審議会における検討状況について、報告する。

【審議会の検討状況の公開】

会議の資料は当日の17時頃、録画映像は概ね１週間後（５開庁日後）、議事録は概ね２週間後（10開庁日後）に、それぞれ区ホームページで公開する。

※第６回基本計画審議会の録画映像は２月１３日（月）に公開済み。議事録は２月２０日（月）に公開済み。

【第６回基本計画審議会】

＜日　時＞
・令和５年２月６日（月）　１８時３０分～２０時３２分

＜会　場＞
・教育総合センター２階　研修室

＜議　題＞
１．基本計画大綱（たたき台）について

第６回基本計画審議会における検討状況

【出 席 者】

	出 席 者
委　員	青柳委員（オンライン）、江原委員、大杉委員、小林委員、汐見委員（オンライン）、鈴木委員、中村委員、長山委員、森田委員、涌井委員、安藤委員、尾中委員、佐伯委員、下川委員、羽毛田委員
区	保坂区長、中村副区長、岩本副区長、松村副区長、松村技監（オンライン）、加賀谷政策経営部長、片桐生活文化政策部長（オンライン）、舟波地域行政部長（オンライン）、田中保健福祉政策部長（オンライン）、畝目都市整備政策部長（オンライン）、秋山政策企画課長、髙井経営改革・官民連携担当課長（オンライン）、箕田政策研究・調査課長、真鍋政策経営部副参事（計画担当）

【議事概要】

議　題	概要
1　基本計画大綱（たたき台）について	これまでの審議会での議論を踏まえて作成した基本計画大綱（たたき台）について意見交換を行った。

【世田谷区議会企画総務常任委員会（2月6日）で出された意見<第６回基本計画審議会へ報告した内容>】

No.	意　　見
1	町会・自治会、商店街について、だいぶ内容が盛り込まれたと思う。計画の体系イメージの絵があったと思うが、その中にＤＸの推進とあったと思う。他の案件においても、高齢者に対して「せたPay」の使い方を丁寧に説明し、もっと推進すべきじゃないかということを言ったが、町会・自治会の今のあり方、例えば若い人が町会・自治会に参加しない、加入率が悪いということについて、例えば役員になったとしても、集まりがあってその時間に出られないとかそういう要因があるとすれば、例えばオンラインでの会議に出られるとか、そういうことを構築していかないと、その推進にはならないと思う。普段からのスマホ教室をもっと充実させるとか、あらゆる機会でそういうことをすることによって、こういうことの効果も出てくると思う。いろんなことが、たぶん一つの政策を進めることによっていろんなところに効果が波及できると思う。そういうことをもう少し審議会で議論していただきたい。あと、ワクワクするということのイメージが、自分が子どもの時のことを考えて、ワクワクするとはどういうことかというと、人に喜ばれる、人のためになった時に人ってワクワクできるというか、生きがいを感じる、そういうことがワクワクだと思う。ワクワクするというのは、何かが楽しいからワクワクするということもあるけど、継続できるワクワクというのは、人に認められるとか、人のためになる、そういうことだと思う。ワクワクという意味の定義などについて、もっとご議論いただきたい。
2	子どもど真ん中ということも書いてあったが、子どもの成長にとってもそれはすごい必要なことだと思う。あと、ステークホルダーの方々のいろいろな意見があったと思うが、現場の意見はすごい大事だと思うので、現場の意見を審議会の中に取り入れられるというのは非常によいことだと思うので、ぜひ推進していただきたい。
3	委員会の中で、何度か世田谷区の人口構成の現状について話をして、それを世田谷区の今後の基本構想の中でどのように課題を解決していくのか、また、行政サービスの受け手である区民の現状にあわせた行政サービスのあり方ということも含めて検討する必要があるということで話をしてきたが、特に他の自治体と比べて、世田谷区が特筆すべき人口構成の特色としては、一人暮らしの世帯が全世帯のうちの５３％もいるというのは、他の２３区の自治体と比べても特に大変多いと感じる。あと、夫婦のみ世帯は全体の１７％、両方合わせると７０％。このようななかで、将来的には子どもが増えていかないと持続可能な社会はつくれないため、「子どもど真ん中」という政策は政策目標としては重要なことだが、現に暮らしていらっしゃる区民に対する住民サービスということで考えれば、人口の構成ということはすごく重要な視点であって、何度か話をしている一人暮らしに対する施策だったり、夫婦のみ世帯に対する施策であったりというような考え方を明確に盛り込むべき。

No.	意　　見
4	多様性ということだけに住民の人口構成の問題などを含有してしまうというのは乱暴だと思っていて、「多様性を尊重します」ということは、今の時代いろいろな自治体で言っているわけで、人口構成上の世田谷区の特色を多様性ということで言ってしまうということは、ちょっとどうなのかなと思う。あくまで、世田谷区には一人暮らしの方がすごく多く、子どもがいらっしゃらなくて夫婦のみの世帯というのも、すごく多い。じゃあ、こうした状況を踏まえ、手当て・サービスはどのようにしていくのかと、それはそれで一つの課題であって、そこに関する文言が一切ない。一人暮らし世帯が抱える問題、夫婦のみ世帯が抱える問題、そういう文言が一切ないということが、区としての問題意識が欠けているんだというふうに思う。やっぱり一人暮らし世帯や夫婦のみ世帯が抱える問題とか、基本計画の中で文言としてちゃんと入れていただきたい。いろいろな他の議員の方とか国会議員の方とかにいろいろと話をして、世田谷区ってこういう現状なんですと話をすると、びっくりされる。「世田谷区ってそんなに一人暮らしがいるんだ」と、大変びっくりされる。半数以上は一人暮らしの世帯ということなので、行政側として、今後の計画の中でこの問題について真摯に取り組んでいくという姿勢が、文言が無いので無いのかなと思う。この問題にちゃんと真摯に取り組んでいただくためにも、一人暮らし世帯という問題、これ全世代的に多い。高齢者の一人暮らしだけではなくて、若年層もそうだし、若い青年層もそうだし、世田谷区って一人暮らし世帯っていうのがすごく多い。学生が多いということもあるとは思うが、その問題に関してしっかり取り組んでいいただきたい。そのことに関する文言が一つもないのは、ちょっとおかしいのではないか。
5	ステークホルダーからの意見聴取の結果は、それぞれ大変な分量で色々な意見が出ている。つぶさに見ていると若干レイヤーが違い、非常に細かい要望的なことも含まれているという感想を持った。案に対する表現や言葉の使い方について、違うのではないかという意見も結構みられたが、そういうものは受け止めたとして、今後どのように返していくのか。団体としても、また区に対する影響が大きいのではないかという思いもあって報告されたと思うが、説明ないしは、言葉を実際に変えていくとか、全体の感想についてどのように思っているか。
6	区としては参加と協働という大きな土台をつくってやっていくという方針の中で、基本計画の策定プロセスにも参加と協働が非常に重要だということでステークホルダーからも意見をもらいながらやっているのだと思う。意見を出していただいたからには、回答に対する返しが非常に重要になってくる。キャッチボールをせずにそのままになってしまうと、それこそ参加と協働からかけ離れてしまうため、その対応はしっかりと行っていただきたい。特に細かな要望については、基本計画とは直接関係がなくても、所管にしっかりと渡し、所管から今回の意見聴取の中で出た意見について、このように我々は考えている、出来る出来ないも含めてお返ししていくことも必要だと思う。

No.	意　　見
7	ステークホルダー意見聴取について、意見聴取をしている団体等を見た時に、例えば一人暮らしや夫婦のみ世帯の団体がなければそういった人たちの意見は反映されないということか。基本計画を検討していく中で、声の大きい人の意見だけを拾ってそれを世田谷区の将来に結び付ける計画に反映させるだけでは、足りないと思う。声にならない声があるため、そういう方たちの意見を、審議会を補完する意味で行政として、声を上げられない、もしくはこういう計画の中で団体が無いような方たちの声をどういう風に反映をしていくかということに関しても、行政としてしっかりと検討していただきたい。
8	世田谷区は意見聴取のあり方として、例えば新聞折り込みをしたり、色んなことをやっているが、その回収率はどうなのか。回収率が良いというふうには聞いていないし、そもそも世田谷区の区民の方にこういうことが決まったという話をすると「そんなこといつ決まったのか」といわれることが多く、区としての広報なり住民参加といっても、一部の人たちしか参加していない。ホームページなどで意見聴取はこういうふうにしていますよというのは、アリバイ的に行っているが、本当に区民の皆さんが分かるのかというとなかなか分からない。色々なチャネルを通じて意見聴取をしていくというのは大切で、世田谷区として大変重要な方向性を決めるということを区民の皆さんに参加していただいて決めるということは大事なことである。声の大きい人の意見ばかり聞くのではなく、偏りがないように声にならない声をもっている方の意見を拾えるような仕組みをしっかりつくっていただきたい。
9	SDGｓについて言及があり、そもそも目標が2030年までの話であるということと、今世界中でSDGｓあるいはサステナブルデベロップメントゴールズということがどれだけ話題になっているのかということを改めてみてみたが、極めて日本で局地的な盛り上がりをしており、あとはジンバブエなど。といったなかで、世田谷区が2033年に向かってつくるものにどれだけSDGｓというものを組み合わせていくのかということを是非改めて考え直した方がよいのではないか。詳細の内容自体を否定するものではなく、ぜひ達成をしていただきたい内容だと思うが、10年後を見て、古臭い計画に見えないような注意をしてもらいたい。

第6回基本計画審議会資料

基本計画大綱（たたき台）

計画策定にあたって考慮すべき事項

【計画策定にあたって考慮すべき事項】

（１）最上位の行政計画としての内容

➢基本計画は最上位の行政計画であり、分野や領域を超えた横断的な視点から、各政策や施策の相互の関連性によってもたらされる効果や影響を勘案しつつ、他自治体との関連性や生態系への影響などの幅広い視点も持ち、計画の検討を進めていくこと。

➢政策や施策を掲げる際には、ＳＤＧｓなどの複眼的な目標に照らし、分野横断的な視点で最適化を図ることのできる計画とすること。

➢将来予測がますます困難となる中、計画上に想定のない事態が生じた際にも役立つ指針となるよう、不測の事態への対応方針についても盛り込んだ計画とすること。

➢基本計画で定める考え方を各分野の個別計画にも着実に反映し、具体的な取組みを進めること。

（２）バックキャスティング

➢新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめとする今般の社会課題は、社会状況に急激かつ急速な変化をもたらしており、行政にはこれまで以上に臨機応変かつ迅速な対応が求められている。現状と課題から改善策を積み上げていく考え方（フォアキャスティング）だけではなく、あるべき未来の姿から逆算して現在やるべきことを構築する視点（バックキャスティング）も踏まえ、計画の検討を進めていくこと。

計画策定にあたって考慮すべき事項

（３）ＥＢＰＭの推進

➢ＥＢＰＭ（証拠に基づく政策立案）を推進し、より効果的で実効性の高い政策や施策の立案を目指すこと。

（４）目標指標の設定のあり方

➢行政の透明性を高め、計画の進捗状況を区民がわかりやすく理解できるようにするため、それぞれの施策を構造化し、上位施策に対して目標指標を設定するなど、本来の目標が希薄化しないよう工夫すること。

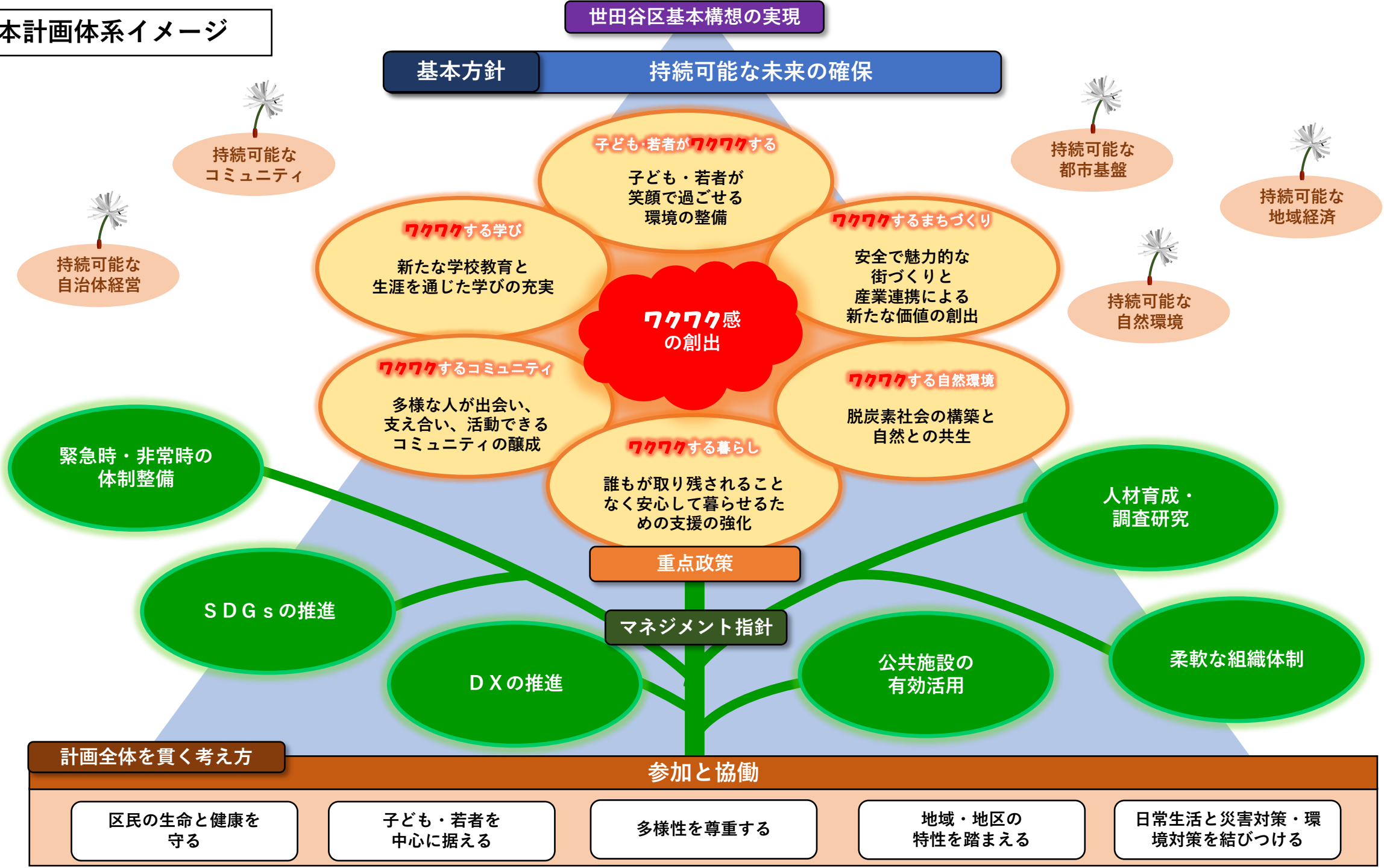
（５）区民意見の反映

➢当審議会での議論をはじめ、区民や区議会、ステークホルダーからの意見や提案を尊重するとともに、子どもや若者の意見を集約する機会やパブリックコメントなどの区民意見を聴取する機会を設け、幅広い区民の参加を得ながら計画を策定すること。

基本計画の体系

基本方針	世田谷区基本構想の実現に向け、今後世田谷区政が目指すべき方向性
計画全体を貫く考え方	政策、施策の立案の際に必ず考慮する考え方
マネジメント指針	横断的な課題に対応するため、資源や資産、リスクなどを管理し、 最適化を図るための指針
重点政策	基本方針の実現に向け、特に重点的に取り組むべき政策であり、 分野横断的な体制を整えて取り組む必要がある政策
計画の推進	政策、施策の推進にあたり重視すべき考え方や必要な視点、 着実に進めるべき取組み

基本計画体系イメージ


世田谷区基本構想の実現
基本方針
持続可能な未来の確保
持続可能な
コミュニティ
持続可能な
自治体経営
持続可能な
都市基盤
持続可能な
地域経済
持続可能な
自然環境
子ども･若者がワクワクする
子ども・若者が
笑顔で過ごせる
環境の整備
ワクワクする学び
新たな学校教育と
生涯を通じた学びの充実
ワクワクするまちづくり
安全で魅力的な
街づくりと
産業連携による
新たな価値の創出
ワクワク感
の創出
ワクワクするコミュニティ
多様な人が出会い、
支え合い、活動できる
コミュニティの醸成
ワクワクする自然環境
脱炭素社会の構築と
自然との共生
ワクワクする暮らし
誰もが取り残されること
なく安心して暮らせるた
めの支援の強化
緊急時・非常時の
体制整備
人材育成・
調査研究
重点政策
ＳＤＧｓの推進
マネジメント指針
ＤＸの推進
公共施設の
有効活用
柔軟な組織体制
計画全体を貫く考え方
参加と協働
区民の生命と健康を
守る
子ども・若者を
中心に据える
多様性を尊重する
地域・地区の
特性を踏まえる
日常生活と災害対策・環
境対策を結びつける

基本方針

【基本方針】

　世田谷区基本構想の実現に向け、今般の社会情勢等を踏まえ、今後世田谷区政が目指すべき方向性について、次のとおり定める。

基本方針：持続可能な未来の確保

　これまで人口減少とは無縁であった世田谷区においても、今後は2039年をピークに人口が減少に転じる見込みであり、全国の自治体と同じように人口減少に直面していく。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめ、大規模台風やゲリラ豪雨の頻発など、これまでに前例のない地球規模のパンデミックや気候危機が、区政の根幹を揺るがす事態となっている。さらに、世界情勢等に起因した物価高騰などにより、区内産業や区内事業者は大変厳しい状況下にあるとともに、社会インフラの老朽化が加速するなど、社会情勢は厳しさを増している。

　こうしたなかで、基本構想が示す「九つのビジョン」を実現し、世田谷の恵まれた住環境や文化・地域性を子どもや若者の世代に確実に引き継いでさらなる発展を遂げていくためには、持続可能性の視点を中心に据えた区政運営が不可欠であり、レジリエンスを高めて長期化するコロナ禍により生じた閉塞感や危機的状況を打破するとともに、人口減少への対応をはじめ、コミュニティ、自然環境、地域経済、都市基盤、自治体経営等において、持続可能な未来に向けた環境整備を図っていくことが重要である。

　引き続き参加と協働を区政の基盤とし、公共的役割を担い地域を支えている町会・自治会や商店街、世田谷が誇る豊富な地域人材や地域資源などとの連携強化により参加と協働のさらなる促進を図りながら、持続可能性の確保に向けた政策、施策を推進し、地球環境が適切に保全され、現在の世代の要求の実現により将来世代が必要とするものを損なうことなく、将来世代の選択肢や可能性を狭めることのない持続可能な未来の確保を目指していく。

計画全体を貫く考え方

基本計画の推進にあたり、政策、施策の立案の際には、次の６つの考え方を必ず考慮すること。

【計画全体を貫く考え方】

（１）参加と協働

➢地域課題の多様化・複雑化などにより、行政だけでの課題解決には限界があるなか、持続可能な社会の構築に向け、参加と協働による政策、施策の展開を区政運営の基盤とする。

➢区民を施策の対象として捉えるのではなく、自ら地域をつくり支える存在として位置づけ、主体的な参加への意欲を引き出すコミュニティづくりを進める。

➢区内には事業所が多数存在し、民間企業や職能団体等も大きな役割を担っていることから、事業者等への理解促進を進め、区民・事業者との連携強化を図るとともに、区民間の協力した活動をサポートするなど、区政課題の解決とよりよいコミュニティの醸成に向け、参加と協働のさらなる促進を図る。

（２）区民の生命と健康を守る

➢区民の生命と健康を守ることが、自治体としての最重要課題であり、引き続き最優先に取り組む。ベーシックサービスを堅持するとともに、身体的な健康のみならず、心の健康につながる心の豊かさなどの視点も踏まえ、子どもや若者から高齢者まで誰もが生命や健康を守られ、地域や他者との関わり合いの中で元気に自分らしく生きていける社会を構築する。

計画全体を貫く考え方

（３）子ども・若者を中心に据える

➢今を生きる子ども・若者は、大人と同様に地域社会を構成する一員であり、地域を一緒につくっていく主体として位置づけ、子ども・若者が参加しやすく、自分たち自身が社会の真ん中にいると自覚できるような政策、施策の組み立てを考える。

➢将来の人口減少局面を見据え、子育しやすい環境の整備、子ども・若者が住みたくなる地域づくりの視点を取り入れる。

（４）多様性を尊重する

➢誰もが多様性の尊重を自分事として捉え、高齢者や障害者、外国につながる方など多様な立場や様々な価値観を持つ方々が一体となり一つの社会を構築できるよう、性別や年齢、国籍、障害の有無などの多様性から、価値観や家族のあり方、ライフスタイルの多様性まで、広く多様性を尊重し、特別なニーズを持つ人のための的確な支援と誰でも参加、活動できる場の確保の両面の視点に配慮する。

（５）地域・地区の特性を踏まえる

➢地域に密着したサービスや地域の実態に即したまちづくりを展開するため、世田谷を均質化して考えるのではなく、各地域や地区の特性や課題などを十分考慮し、区民ニーズを的確に捉える。

➢世田谷区地域行政推進条例及び地域行政推進計画と十分な整合を図る。

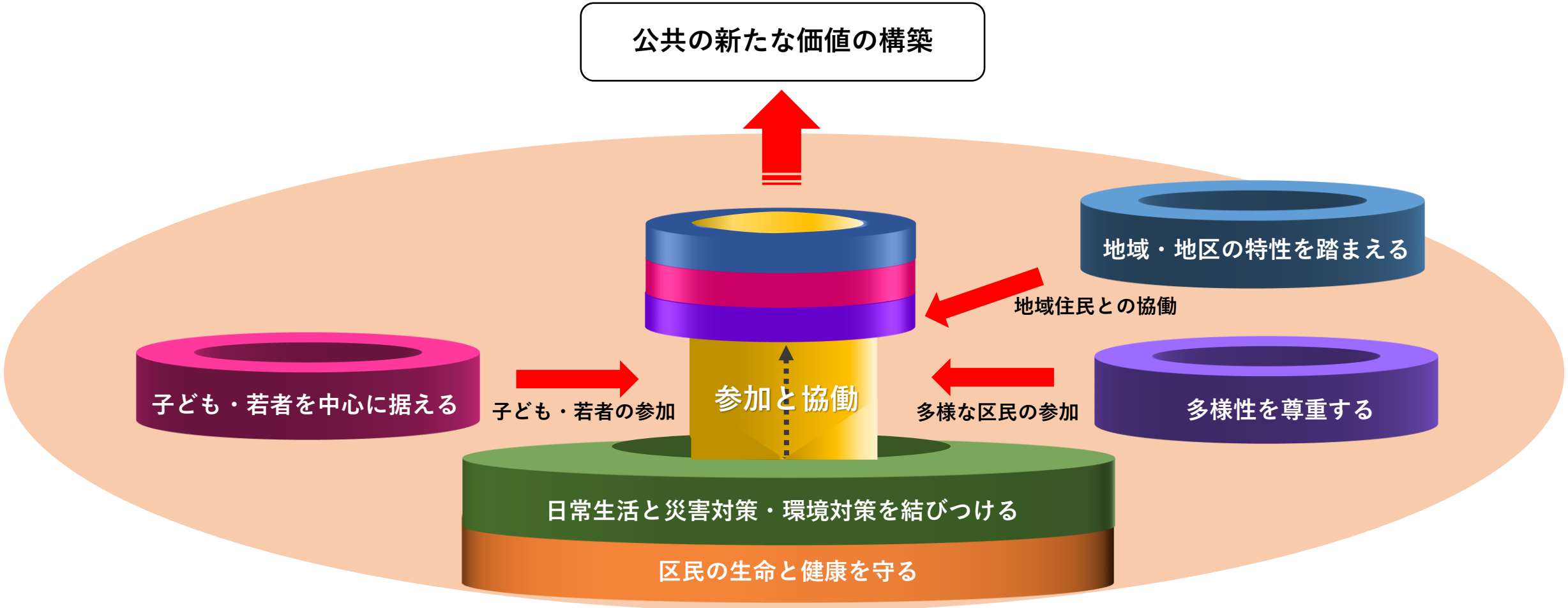
計画全体を貫く考え方

（６）日常生活と災害対策・環境対策を結びつける

➢災害対策は日常生活と切り離して考えるものではなく、平常時から災害時を意識し、平常時の取組みを災害時にも役立てるといった考え方が大切である。また、気候危機への対応は地球規模の大きな転換が必要な課題であり、自然環境と共生した社会の実現に向け、日常生活におけるあらゆる取組みをいかに環境負荷低減につなげていけるかといった視点が重要となる。そのため、日常生活と災害対策・環境対策を常に結びつけて考える。

計画全体を貫く考え方の基軸となる「参加と協働」

　地域課題の多様化・複雑化などにより、行政だけでの課題解決には限界があるなか、持続可能な社会の構築に向け、区政の基盤となる「参加と協働」をいかに促進できるかが、今後の大きな課題となる。
　「区民の生命と健康を守る」、「日常生活と災害対策・環境対策を結びつける」ことで区民の日常生活を支えつつ、「子ども・若者を中心に据える」、「多様性を尊重する」ことでより多くの区民参加を促し、「地域・地区の特性を踏まえる」ことで地域住民との協働体制を強化しながら、公共の新たな価値の構築を図り、持続可能な未来の確保につなげていく。



【マネジメント指針】

横断的な課題について、次に掲げるマネジメント指針を踏まえ、具体的な取組みを進めること。

（１）緊急時・非常時の体制整備

- ➢天変地異に起因する災害や新たな感染症の感染拡大など、緊急事態・非常事態が生じた際は、人命の救助と被害の軽減に最優先に取組む。
- ➢緊急時・非常時の体制整備や必要な対策への予算措置を最優先し、状況に応じて補正予算等で迅速に対応する。
- ➢緊急事態・非常事態に可能な限り迅速かつ柔軟に対応するため、組織の垣根を超えた全庁的な応援体制を構築し、対応にあたる。

（２）ＳＤＧｓの推進

- ➢ＳＤＧｓの目標年次である2030年に向け、区の取組みとＳＤＧｓとの関連性を明らかにし、関連性を意識しながら分野横断的な施策展開を図っていく。
- ➢事業の意思決定にあたり、事業がＳＤＧｓに対して与える影響を予測評価し、その評価を考慮して可否を決定するなど、複眼的な視点でシナジー効果の発揮に努める。

マネジメント指針

（３）ＤＸの推進

➢ＤＸの取組みを加速させ、区民を主体としたサービスデザインを徹底するとともに、多様な区民の意見や提案が区政に反映される仕組みや様々な情報の共有が可能となる仕組みの検討を進める。また、デジタル化を進めて業務改善を図り、働き方改革にもつなげていく。

➢ＤＸの推進にあたっては、デジタル機器の扱いに不慣れな区民に情報格差が生じないよう、フォロー体制も合わせて構築する。

➢オープンデータや庁内でのデータの分野横断的な利活用、新たなクラウドサービスの活用について、仕組みの構築や運用ルールの整備を図るなど、より便利で快適な環境づくりを進める。

（４）公共施設の有効活用

➢ＰＦＩやＰａｒｋ－ＰＦＩをはじめとした官民連携手法による公共施設整備の推進による魅力向上、多世代・多用途での公共施設のさらなる有効活用など、社会状況を踏まえた柔軟な施設整備を進めていく。

（５）組織運営の変革

➢社会状況の変化が目まぐるしい中、突発的な課題に即材に対応していくため、課題に応じた機動的な対応が可能なアジャイル型組織への転換を目指すとともに、民間を含む多様な社会資源とも連携を図りながら、組織運営の変革を進めていく。

（６）人材育成・調査研究

- 基本計画の実効性を高めるため、区職員が日頃から自らの業務を振り返り、より精度を高めていけるよう、調査研究をしっかりと行える体制づくりを進める。また、基本計画の策定、推進を契機に、ＥＢＰＭ（証拠に基づく政策立案）の推進をはじめ、職員の計画立案能力や計画遂行能力を高めるなど、人材育成に取組む。
- 民間企業等への職員派遣や外部人材の登用等を積極的に進め、民間企業等の経営感覚やコスト意識など公務では得られない専門知識やノウハウの取得によるスキル向上等を図り、専門性の高い課題の解決や新たな施策展開につなげていく。

重点政策

【重点政策】

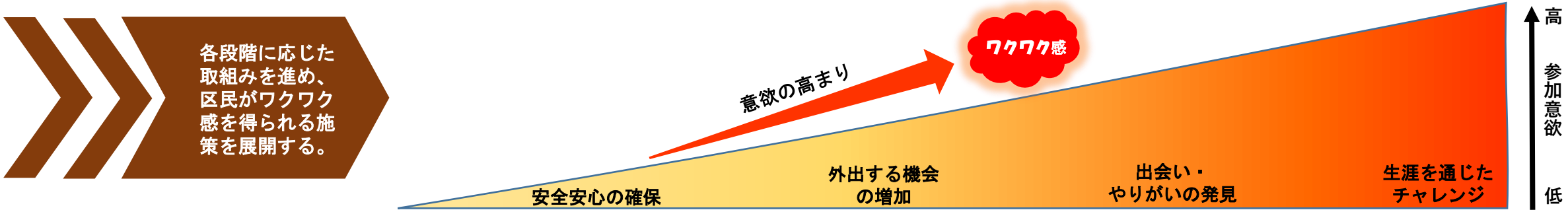
重点政策とは、基本方針の実現に向け、特に重点的に取組むべき政策であり、関係部署が多岐にわたるほか、分野の狭間に陥りやすく、複合的な課題等も含まれるため、分野横断的な体制を整え、関係部署が一体となって取り組む必要がある。

次の６つの政策を重点政策と位置づけ、重点政策をつなぐコンセプトを踏まえ、共通する理念のもとで、分野横断的に取組みを進めること。

【重点政策をつなぐコンセプト】

コンセプト：ワクワク感の創出

コロナ禍により社会に閉塞感が漂い、人と人とのつながりの希薄化や地域コミュニティの分断が進むなか、区民にポジティブな気持ちで積極的に行動、参加してもらうためには、日常生活の中でワクワク感を得ながらレジリエンスを高め、興味ややりがいを見出してもらえる環境を整備することが重要である。区民の参加意欲を高めるワクワク感の創出につながる政策を推進することで、政策の実効性が高まり、参加と協働の促進も図られ、持続可能性の担保にもつながっていく。区民がワクワク感を得られるためには、まずは自身の安全安心が確保されていることが不可欠であるため、安全安心の確保から、生涯を通じたチャレンジができる環境の整備まで、各段階に応じた取組みを進め、区民の意欲的かつ継続的な参加につなげていく。



子ども・若者がワクワクする

（１）子ども・若者が笑顔で過ごせる環境の整備

- 今後人口減少が見込まれるなか、子ども・若者が住みたくなるまちを目指す必要がある。今を生きる子ども・若者は地域社会を構成する一員であり、地域を一緒につくっていく主体として位置づけ、子ども・若者の声をしっかりと聞き政策に反映するため、子ども・若者が継続的に意見を表明しやすい環境づくりを進める。
- 様々な価値が形成される子ども期に、すべての子どもが自らの選択により地域で豊かな体験を重ね、力を発揮できる場や居心地よく安心して過ごせる場が身近にある環境づくりを進めるとともに、若者施策として、児童館や青少年交流センターなどを活用した参加と協働の取組みを進めるほか、若者の事業展開に向けた支援を検討するなど、子ども・若者が、自分たち自身が社会の真ん中にいると自覚できるような施策展開を図っていく。
- 「子ども・子育て応援都市」をバージョンアップして子育て基盤の充実を図るとともに、妊娠期から孤立することなく、日々の暮らしの身近なところで地域の人々や子育て支援につながりながら安心して暮らせるよう在宅子育て支援も充実し、保育と福祉、医療のさらなる連携強化に取組み、子どもを生み育てやすい環境の整備を進める。
- 子どもの減少に応じて単に支援や施設を減らすのではなく、妊娠期から低年齢期を含めたすべての子育て家庭を対象にした子ども・子育て支援施策を拡充することをベースに、支援や施設ごとに分かれていた施策を総合的な視点で組みかえ、一体化する方向を目指していく。

ワクワクする学び

（２）新たな学校教育と生涯を通じた学びの充実

- 子どもたちのライフコースの描き方が大きく変わるなど社会状況の大きな変化を踏まえ、画一的な学び方から個に応じた多様な学び方へとこれまでの学校教育を大きく転換させる時期を迎えている。子どもたちが自ら地域課題の解決策や興味、関心が高いテーマなどについて考える探究的な学びへと転換させ、「参加・協働」の視点も一つのキーワードとして捉えながら、一人ひとりの多様な個性・能力を伸ばし、子どもたちが生き生きと学べる新たな学校教育を目指していく。
- 近年不登校の子どもの割合は増えているが、一人ひとりの子どもの将来性や可能性を保障するためにも、多様な学びの場の確保や支援策の検討を進めていく。
- 急激に社会状況が変化する今般の社会において、リカレント教育や学び直しができる環境の確保は重要な課題である。地域の多様な社会資源と連携、協働し、社会教育の充実や区民の主体的な学びの支援に取組み、区民が社会性を育む生涯学習の基盤を整えるとともに、学んだことを生かせる機会や場の充実も図りながら、誰もが生涯を通じて何度でも学び直しができ、様々なことに積極的にチャレンジできる社会の実現を目指していく。

ワクワクするコミュニティ

（３）多様な人が出会い、支え合い、活動できるコミュニティの醸成

- 社会的孤立や孤独が大きな問題となる中、人と人とのつながりを深めてコミュニケーションや関係性の修復を図ったり、孤立感、孤独感を感じている人が、自分も役に立てるという場をつくったりすることで、地域力の向上を図ることは喫緊の課題である。町会・自治会を中心とするコミュニティを基本に、お祭りなどの地域の誰もが参加できるイベントを定期的に開催するなど、地域住民同士が継続的に交流できる機会を確保し、全ての人に「居場所と役割」があるまちづくりを心がけ、住民相互の関係性を深め、災害時にもお互いが支え合い、助け合える関係性の構築や地域コミュニティの醸成を図っていく。
- 地域には高齢者や障害者、外国につながる方など多様な方々が暮らしており、多様性を認め合い、新たな出会いが生まれることで、地域住民同士の新たなつながりが芽生え、地域活動などへの参加意欲の向上にもつながる。地域住民の自主的な活動が重層的に展開できる環境の整備や文化・芸術・スポーツの振興などに取り組み、多様な出会いの機会の創出や誰もが様々な活動に参加できる機会の確保を図りながら、アクティブでポジティブなまちづくりを進めていく。
- 身近な地域や地区におけるコミュニティの醸成にあたっては、世田谷区地域行政推進条例及び地域行政推進計画に基づき、まちづくりセンター、総合支所、本庁の三層制のもと、地域に密着した総合的な行政サービスと地域の実態に即したまちづくりを展開するとともに、区政への区民参加の促進を図りながら、地区・地域における課題解決力の向上を目指していく。

ワクワクする暮らし

（４）誰もが取り残されることなく安心して暮らせるための支援の強化

- 誰もが地域で安心して暮らすことのできる社会の実現に向け、日常生活における必要な支援に加え、生活拠点となる住まいの確保への支援も重要な課題であり、特に単身高齢者や障害者、ひとり親家庭への支援を強化する必要がある。また、経済格差の拡大に伴い深刻化する貧困問題は、実態が見えにくく、対応が難しい課題であり、ひきこもりや8050問題、ヤングケアラー、ごみ屋敷問題など、分野の狭間に陥りやすく、複合的な課題に対しても、しっかりと対応する必要がある。関係機関とのネットワークを強化してこれまでの重層的な施策展開を発展させつつ、分野横断的な体制を整え、地域のまちづくりや住民同士の支え合い活動と連動させながら、誰もが元気で生き生きと尊厳をもって地域で暮らすことのできる基盤づくりを強化するとともに、苦しい人に支援がしっかりと届く取組みや仕組みの構築を目指していく。
- 男女だけではなく多様な性を含めたすべての区民の人権が尊重され、自らの意思に基づき個性と能力を十分発揮することができる男女共同参画社会を築くため、国際的な動きとも連動を図り、総合的に取組みを進める。また、女性が子どもを産むということは、身体上のみならず、家族関係や仕事、勉学の継続上のリスクなど、多くのリスクに直面する可能性があるため、特に相談体制等が手薄な若年女性への支援強化を図っていく。
- 支援を必要とする方の中には、困っていることを知られたくない、相談することに不安を抱いている方も多い。そういった方々をいかに相談や支援につなげるかといった視点もしっかりと考慮し、政策や施策の立案、展開を図っていく。また、災害時に備え、要配慮者に対する施策に優先的に取り組むべきであり、福祉避難所などの支援策の充実を図っていく。

ワクワクする自然環境

（５）脱炭素社会の構築と自然との共生

- 人類の生存を脅かしている今般の気候危機は、世田谷区の取組みだけで解決できる問題ではなく、地球の生態系の健全性の維持向上に対する人類の役割を踏まえ、地球規模で取組みを進めていく必要がある。気候変動を抑えるためには、地球温暖化の原因物質である温室効果ガス排出量を削減する「緩和」によって根本的な原因に対する対策を講じるとともに、気候変動に対して自然生態系や社会・経済システムを調整することにより気候変動の悪影響を軽減する「適応」を同時に進めていくことが求められている。「気候非常事態宣言」を出した自治体として、区民や事業者、他自治体などとの連携、協力を図りながら、省エネルギーの促進や再生可能エネルギーの導入促進などの脱炭素化の取組み、プラスチック資源循環の取組みなどを一層加速するとともに、災害への備えや熱中症対策の強化を図るなど、地球温暖化の緩和と適応の取組みを進め、持続可能な社会の構築を目指していく。
- グリーンインフラを推進するなど、自然環境が持つ多様な機能を積極的に活かしながら、生態系の維持も含めた自然環境との共生のための取組み、みどりの保全・創出に向けた取組みを一層進めることで、区民の心の豊かさや幸福感の向上を図り、居心地がよく住みやすいまちづくりにつなげていくとともに、みどりに恵まれた世田谷の良好な住環境を、子どもや若者の世代へ確実に引き継いでいく。

ワクワクするまちづくり

（６）安全で魅力的な街づくりと産業連携による新たな価値の創出

- 災害に強く安全で、区民が快適に暮らせる街づくりに向け、区民の生活を支える都市基盤の整備は不可欠なものとなっている。社会インフラの計画的な維持・更新に取組むとともに、建物の耐震化や不燃化、避難路の整備、豪雨対策などを着実に進めていく。
- 今後の人口減少社会を見据え、人を惹きつけ、誰もが住んでみたいと思える街づくりを進める必要がある。三軒茶屋、下北沢、二子玉川駅周辺の広域生活・文化拠点をはじめとする街づくりにおいて、目指す都市像を明確にし、地域特性を活かした魅力と活力のある都市の創出を図る。また、既存施設等を総点検し、官民連携による柔軟な発想で都市のストックの有効活用を図り、区民ニーズを捉えた多世代が交流する場や誰もが親しめる空間の創出を図るなど、歩いて楽しい街づくりに取組む。
- コロナ禍以降、デジタル化、リモートワークが進み、職住が一体となりつつあり、住んでいる生活の中に「働く」ということが真ん中に入ってきている。区民の生活をベースとする起業や創業も既に区内ではかなり見受けられており、事業所や企業による既存産業の振興に加え、区民も産業振興の主体に含め、地域社会の課題を解決するコミュニティビジネスやソーシャルビジネスの振興にも取り組む。
- 今般の地域課題は多様化しており、その解決の担い手となる地域人材、起業家の輩出、育成は非常に重要である。商店街などを拠点に、起業家の輩出や育成を支える基盤づくりを進める。
- 多様な人がいて、多様な地域課題があることは、一方でビジネスチャンスも多様であり、共感を得やすい地域課題の解決をテーマにした起業学習などにより創業機運の醸成を図るなど、新たなビジネス創出につながる取組みを進め、ビジネスの場として魅力的な環境の整備を図る。

計画の推進

【計画の推進】

計画の推進とは、基本計画に掲げる政策、施策の推進あたり重視すべき考え方や必要な視点、着実に進めるべき取組みである。
次に掲げる４つ内容について、具体的な取組みを進めていくこと。

（１）情報発信・情報公開

- ➢世田谷区の取組みを区民や事業者、他自治体等に広く正確に理解してもらえるよう、プッシュ型、プル型の情報発信に一層力を入れるとともに、戦略的な情報発信により、世田谷のブランド力の向上を図っていく。
- ➢世田谷区の情報や文書は適切に管理、保存し、公正で開かれた区政を実現するため情報公開を徹底する。

（２）行政評価

- ➢基本計画を着実に進めるため、施策ごとの指標にもとづき定期的に成果管理を行う行政評価を徹底し、課題と改善方法を明らかにする。
- ➢計画全体の進捗状況を確認するための適切なチェック体制について、検討を進める。

計画の推進

（３）働き方改革

➢今般の急激な状況の変化や区民ニーズの高度化・多様化への対応などに伴う職員の業務量の増加等を踏まえ、デジタル化と業務改善、意識改革を両輪とする働き方改革を推進する。

➢個々の実情に応じた、多様な働き方を選択できる環境の整備も進めていく。

（４）他自治体や国際社会との協力連携

➢世田谷区政は他自治体や国際社会との支え合いの中で成り立っていることを再認識し、政策や施策の立案・推進にあたっては、常に他自治体や国際社会への影響等を意識して協力連携を図りながら、取組みを進める。

【第６回で委員から示された基本計画大綱（たたき台）に関する主な意見】

意見が示された範囲	委員から示された意見
計画全般	◆区は、基本計画にどれだけの拘束性を持たせているのか。予算、政策をつくるときに、基本計画を踏まえているかをチェックし、さらに行政評価をしているのか、そうした計画でないと区政に機能しないのではないか。【中村委員】
	◆中間層が分断をして両極化しており、その結果、地域が分断されるということにつながっていて、どのように共同体をつくり出すのか、区民一人一人が自立して参加をし、地域にどう残していくのかということを考えていく。言わばバージョンアップした共同体をどう構築するのかということが非常に重要である。【涌井委員】
	◆今回の議論がバックキャスティングで未来から見ていった結果で、この大綱が出てきていると思うが、今の計画の延長のようなところがある。ＤＸ等々を入れている、ネットワークという言葉が外れているという違いもあり、重点政策でも文化の創造と知のネットワークづくりは今回入っておらず、現行計画と比較をしてみてもよいのではないか。【長山委員】
	◆世界的にも中産階級が痩せてきて二極化しており、世田谷区は中産階級が多く、今はその中産階級が支えて今の地域環境などがあるが、中産階級が痩せていくと、世田谷の今の状況がどれだけ守れるのか。子どもや若者が成人し、社会で活躍する２０年後、３０年後に今の治安状況、環境状態を守れるのか、今の福祉厚生の水準を守れるのか。おそらく下っていく中で、今の状況を維持するのであれば、それを何で補うかを意識する必要があり、よほど知恵を使わないと、今のレベルを維持できないのではないか。【青柳委員】
	◆人口１００万近くなるような大きなコミュニティを、どういうふうに２１世紀の中盤に向けてつくっていき、住んでいる人にとって住みやすいだけではなく、若い世代が夢を描けるようなコミュニティになっていくのかという全体の構造が浮かびにくい。【汐見委員】
	◆これから何でも区が公でやるという話ではなく、地域住民がどうやって自分事として自分の周りの課題を解決するかであり、もう一度、公と私の間の共をどうやって再構築するか、地域共同体をどうつくるのかが非常に重要である。インクルーシブな形で地域共同体をつくる、磨き上げることが一番優先されるのではないか。【涌井委員】
全体構成	◆全体構成について、５つに分かれているが、区民全員に届くメッセージとして基本方針、具体的に取り組むべき重点課題、計画の立案から実行までの取組の指針、姿勢、決意表明といった３部構成ぐらいが分かりやすいのではないか。【羽毛田委員】
	◆基本方針、計画全体を貫く考え方が、この基本計画の基本的な考え方に当たり、計画の対象が重点政策に当たり、いかに計画を進めるかというhow toが計画の推進とマネジメント指針ということだと思うので、その３部構成で整理してはどうか。【中村委員】
	◆計画策定にあたっての考え方は計画のつくり方、マネジメント指針や計画の推進は計画の動かし方で、つくり方と動かし方としてまとめるなど分かりやすいことが大事である。【小林委員】
	◆全体構成については層が分かれすぎて複雑で分かりにくいというのは共通に感じているところと思うので、全体の構成としては３層程度で考えていくということで整理したい。【大杉会長】
	◆項目的に重なっているところも多く、３段構成にすることには賛成である。【鈴木委員】

意見が示された範囲	委員から示された意見
基本方針	◆基本方針の「持続可能な未来の確保」について、これまでの議論の内容を反映しており賛同するが、この持続可能な未来の確保と並立する形で、都市としての世田谷の魅力を積極的に高め、より選択される都市になるといった積極的なメッセージを基本方針のもう１つの柱にしてはどうか。【安藤委員】
	◆これまで議論では、子育て、子ども、家族といったところへスポットがあたっていたが、子どもを育てていない夫婦や独身の方も非常に増えていて、多様性がより深まっている。こうしたスポットがやや当たりにくい人たちは世田谷に魅力を感じて住んでくれる方たちでもあり、そうした方たちにこたえるためにもハードの部分と区民検討会議でも出ていた文化、緑といったものも含めて町全体の魅力を高めていくことを方針として掲げるとよい。【安藤委員】
	◆基本方針に一つ加えて、「あらゆる世代が住み続けたい世田谷をともにつくる」というコンセプトの下で全てを整理してはどうか。これと持続可能性の確保の２つで包含できるのではないか。【中村委員】
	◆委員の皆さんが言ってきたものは全てこの中に入っているので、何を一番上に持ってくるかというのが論点ではないか。持続可能な未来でいいのか、参加と協働も目標と手段という形で一番上に持ってくるのがいいのか、環境がいいのか、ソフト的なものを持ってくるのか、どれを頭に持ってきて包括概念にするのか合意する必要がある。【鈴木委員】
	◆個別計画ではできないことを基本計画で書くべきで、不安定感、不信感、希望が本当に持てないこの社会の中で、一番上のところに何を持ってくるか考えると、平和、人権、共生など全てのところを貫いていくようなものが一番大事ではないか。参加と協働は一つの方法論であり、それによりどんな社会を実現するか、みんなが願う暮らしの中での目標を一言で表せるとよい。【森田委員】
	◆目指すところは議論する必要があり、持続可能性は、ほかに無理を押しつけて、犠牲を出して、自分だけ得をすると続かない。みんなで助け合って、支え合っていくということが持続可能性なので、それが分かる基本方針とするべきで、人や自然が支え合って、生き生きと住み続けられる世田谷がよいのではないか。【小林委員】
	◆基本方針に、今、この場で委員の方が発言した世田谷の今抱えている問題意識や今後目指していく明るい未来、そういったものをここまでの議論をうまく集約して、区民に読んでもらうという目線で訴えかける文章をぜひ入れてほしい。【安藤委員】
目標	◆目標がないということに違和感があり、基本方針に持続可能な未来をつくるとあるが、抽象的であり、持続可能なコミュニティや持続可能な経済、自然環境、インフラ、それがどんなものなのかを書くべき。基本計画でしか書けない目標像を書くべきであり、たたき台は目標、未来像、目指すところが抜けている。【小林委員】
	◆図を見るときれいに整理されていると感じるが、何を目指しているのか、どの様な目標により、共有できる都市像を描くのかがよく分からない【涌井委員】
	◆バックキャスティングの計画というのであれば、具体的に目指す像を書き、数量的な指標を書く必要があり、中身、コンテンツが重要ではないか。【小林委員】

意見が示された範囲	委員から示された意見
計画全体貫く考え方	◆９ページで計画全体を貫く考え方の基軸となる参加と協働を表しているが、基本方針があり、計画全体を貫く考え方があり、さらにその考え方の基軸があって分かりにくいため不要ではないか。【中村委員】
	◆非常時の常態化、言わば災害は常態化しており、これから考えていかなければいけない。【涌井委員】
参加と協働	◆参加と協働が第一に掲げられている点は重要で納得感があるが、町会加入率が年々減っているという明らかな課題がある中、さらなる促進という認識でよいのか。参加する時間、意欲、活躍できる素養があり、何らかの見返りや達成感があれば、参加するという人は多いのではと思っており、そうした環境がないから、徐々にコミュニティが機能不全に陥っている現状があるのではないか。たたき台では主体的な参加など強い言い方で求められていると感じており、もう少し門戸を広げて、柔軟で多様な参加の仕方を歓迎するといった打ち出し方がいいのではないか【羽毛田委員】
	◆ふるさと納税は、どういった基金があって、どのような団体にお金が使われてということを自分で調べて、この使い道にしようと使い道を自分で考えて指定するが、こうしたことも重要な参加にあたると思う。【羽毛田委員】
	◆若者などが見たときに、自分事として参加したくなるような見え方は重要で、参加を基にコミュニティ形成を行っていくのであれば、そこに引き込む工夫が必要である。【尾中委員】
	◆既に地域で行動したり、日々考えたりしている方たちはたくさんいるので、そうした方たちを巻き込めるような参加と協働の窓口があるとよいのではないか。【下川委員】
重点政策	◆外国人のカップルが婚姻届を出すにあたって、手順等どこに聞けばいいか分からず、英語での対応を含めて困っているということがあり、これから多様性の尊重を考える中では大事なポイントである。【下川委員】
	◆子ども・若者の声をしっかりと聞き政策に反映するとあるが、大人を前にして意見するのは言いにくいということもあると思うので、ＳＮＳやウェブを活用したアンケートなどのほうが、個人的な意見を言いやすい場がつくれるのではないか。【佐伯委員】
	◆児童館や青少年交流センターを私自身活用した経験がなく、少しずれていると感じる。プール教室やお祭りなどが区民の方と関われる機会だったので、放課後や土日にスポーツ教室を開いて開放するといった政策のほうが子どもの豊かな成長や体験につながるのではないか【佐伯委員】
	◆三軒茶屋や下北沢、二子玉川と具体的に挙がっているが、駒沢、桜新町、用賀など区にはいろいろなすてきな住みたい地域があり、いろいろな地域に目を向けて魅力的な街づくりを考えてもいいのではないか。【佐伯委員】
	◆重点政策には、福祉を通じても環境をよくする、環境がよくなると福祉もよくなるなど、個別計画では書けないことを書くべきだと思うが、個別計画でできることばかり書いてあると感じており、何を書くべきかを議論してほしい。【小林委員】
	◆一つ一つのまとまりはキーワード的なものもありこのままでいいと思うが、もう少しすっきりと簡潔に、より抽象的に書いたほうが読みやすいのではないか。【安藤委員】

意見が示された範囲	委員から示された意見
重点政策	◆重点政策が個別計画では対応できないが、横断的に取り組むと解ける問題があって、これをやらないと基本計画自体が実行できないという政策であるとして、それに値するものが何なのかは議論が必要ではないか。【小林委員】
	◆ワクワク感が悪いとは言わないが、大事であるということであれば、この政策がワクワク感に通じるんだというものを書くべき。【小林委員】
	◆基本方針の持続可能な未来の確保と、重点政策のワクワク感が合っていない。地球環境は危機で、産業、人口問題等様々な問題がある中、持続可能な未来を確保するという大きな方針があり、水準として区でここまでやりますというものがあり、その上で、さらに世田谷はもっと未来に向けてというところでワクワク感、という２段階なのだと思う。【江原委員】
	◆ワクワク感だけでは駄目で、ワクワク感で何を狙うのか、地域の共同体をどうやって成熟させるのか、といった目的を明確にしなくてはいけない。高齢者の問題にしても、ハンデキャッパーの人たちについても、どうやって相互扶助するのか、どうやって街づくりに参画していくのか。入り口はワクワク感でもよいが、健全な種をどうやって飛ばすかが重要で、公と私が対立するのではなくて、改めて自主的な共を再構築できるような地域社会をどうつくるかが非常に重要である。【涌井委員】
	◆ワクワクしたり、出会いがあったりという議論は確かにあったので、それを基にして、ワクワク感が出てきていると理解はしているが、社会的弱者が取り残されることのないようワクワクと弱者保護の両方の視点が必要ではないか。【鈴木委員】
	◆持続可能なコミュニティにどう重点施策がかみ合っているのかという構造が見えにくい。住む人がどのように生産活動をし、どのように消費活動をするかがコミュニティが持続するベースであるが、食糧自給率が先進国の中で最も低い中で、環境問題などの様々な影響を受けるのが食糧であり、持続可能なコミュニティをつくっていくには、農業を再評価しないと残れない。そして消費活動に関係するのが社会インフラで、エネルギーをどのように確保していくのか。世田谷区で消費する電力は、半分以上クリーンエネルギーでやっていく、そういうコミュニティを目指すといったこと。一番深刻になっていく少子高齢化の問題がある中で、出産、育児という問題を解決し、高齢者も生き生きしているコミュニティをつくる。一つ一つの重点政策がこういう形で新たなコミュニティづくりにつながっていて、そのための６つの重点政策であるという構造が見えると納得されるのではないか。【汐見委員】
	◆参加と協働でしかできないことを環境分野で考えると、グリーンインフラである。街づくりなどと組み合わさないと達成できないので、グリーンインフラは大事であり、重点政策にあってよい。環境だけではできないことを議論し、目標に向かって、みんなが参加しないとできない分野横断的な対策が必要なものを議論してほしい。【小林委員】
	◆子どもたちに残せるものは何かと言えば、やはり教育だと思う。進行している教育格差を区としてできるだけカバーし、教育の世田谷区となれば、本当にすばらしい地域になるので、教育の重要さについてぜひ基本計画の中に入れてほしい。【青柳委員】

次期基本計画検討スケジュール（案）

	令和４年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
議　会			第２回定例会 ●5月常任委員会 ・検討の進め方	●7月常任委員会 ・検討状況報告		第３回定例会 ●9月常任委員会 ・検討状況報告 審議会の検討状況を適宜報告		第４回定例会				第１回定例会
審議会		審議会有識者調整				●第１回審議会 審議会諮問	●第２回審議会 審議会の議論	●第３回審議会	●第４回審議会	●第５回審議会	●第６回審議会	●第７回審議会 ●第８回審議会 審議会答申
区民検討会議			●6/1委員公募（区のおしらせ） 委員調整	●7/23第１回区民検討会議 区民ワークショップ	●8/6第２回区民検討会議 ●8/20第３回区民検討会議				Decidimを活用した継続的な意見交換			
その他		●区民意識調査 ●区政モニターアンケート		将来人口推計					ステークホルダー意見聴取			
			せたがや版データアカデミーの開催									

次期基本計画検討スケジュール（案）

	令和５年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
議　会		●5月常任委員会 ・基本計画（骨子案）	第２回定例会			●9月常任委員会 ・基本計画（素案）	第３回定例会		第４回定例会		●2月常任委員会 ・基本計画（案）	第１回定例会
審議会												
区民検討会議												
その他		●区民意識調査 ●区政モニターアンケート	区民意見募集 Decidimによる意見集約 子どもの意見集約	将来人口推計			パブリックコメント					